

態維持に関与していることが示唆された。

### 32. 義歯装着未経験者の可撤性有床義歯に対する認識度

#### —第4報 義歯使用上の問題点とその理解度について—

○山田 一晴, 石島 勉, 平井 敏博,  
越野 寿, 池田 和博, 横山 雄一,  
久保田博信, 金子 寛  
(歯科補綴学第1講座)

【目的】 高齢者のQOLの確保のためには健全な顎口腔系組織・器官の保全はもちろんのこと、健全な咀嚼機能の確保が不可欠である。しかし、高齢者の多くは多数歯を喪失していることから、その咀嚼機能の確保には可撤性有床義歯が重要な役割を担うことになる。一方、今後の老人保健活動には、セルフケアの充実、相互援助活動の推進、サポートシステムの創出が必要であるとされており、高齢者と若年者の相互理解と共存が不可欠となる。したがって、義歯装着経験のない若年者も、義歯による咀嚼機能の回復と維持・管理の重要性やその意義について、十分に認識しておく必要があると考える。そこで、今回、義歯装着者と義歯未経験者の義歯に対する認識度を調査し、その相違点を明らかにした。

【方法】 義歯未経験者（男性161名、女性231名、計392名）ならびに義歯装着者（男性135名、女性228名、計363名）の両者を対象として、義歯装着者の食事の際に支障の有無、有歯時に比較した外観ならびに発音機能の

回復程度、義歯装着者の口臭についての自覚の程度、口臭について指摘された、あるいは、指摘した経験の有無、義歯に関する悩みについての相談経験の有無および義歯未経験者の理解度について、アンケート方法で調査を行った。

【結果および考察】 義歯装着時の食事、発音、口臭に関して、義歯装着者は義歯未経験者が認識しているほどには不満を自覚しておらず、両者の認識には差があることが明らかになった。また、義歯に関する悩みについて義歯未経験者は十分には理解しておらず、その結果、義歯装着者が義歯未経験者に悩みを相談することが少ないことが明らかになった。これらの結果は、義歯未経験者の義歯あるいは義歯装着者に対する認識ならびに理解が十分でないことを裏付けるものであり、今後、義歯の役割や意義に関して、義歯未経験者に対する啓蒙活動の必要性が示唆された。

### 33. 放射線照射ヒト血清から発生する活性酸素種に対する歯科用麻酔薬の影響

○金田 英生, 竹林 義人, 堀川 孝明,  
後藤 邦彦, 佐野 友昭, 金子 昌幸  
(歯科放射線学講座)

われわれは、歯科用麻酔薬が放射線照射時にどのような影響を及ぼすかについて検索を加えることを目的とした。

ヒト血清100 $\mu$ l, DETAPAC35 $\mu$ l, DMPO15 $\mu$ lならびに各種濃度の塩酸キシロカイン, エピネフリンあるいは含エピネフリン塩酸キシロカイン50 $\mu$ lを混合し、0.5Gyのエキス線照射を行って、各種濃度における活性酸素種に対する影響を、ESRスピントラップ法で検索した。ESRによる測定値は、標準として用いたMn<sup>++</sup>のピークと相対信号強度として表した。エキス線照射の条

件は、管電圧60kVp, 管電流3mA, 線量0.5Gy, 照射時間60sec, 半価層0.32mmAl, とした。

塩酸キシロカイン, エピネフリンのみの添加時に、放射線照射ヒト血清から発生する活性酸素種は、DMPO-OHとDMPO-Hであると同定された。また、含エピネフリン塩酸キシロカイン添加では、DMPO-ORが同定された。

各種濃度の塩酸キシロカイン単独添加時の相対信号強度は、DMPO-OHならびにDMPO-Hともに、コントロールから60 $\times 10^{-4}$ Mまで、ほぼ同等の値を示した。